

# 2012年を迎えて

## わが社の抱負

「ユニークな生産体制で安定した利益を稼ぎ出していきますね。」

伊藤 当社は金型メーカーといっても、生産額の9割は自動車や電機などのプレス部品加工。本社金型工場と周辺に4カ所、

「ユニークな生産体制で安定した利益を稼ぎ出していきますね。」

伊藤 当社は金型メーカーといっても、生産額の9割は自動車や電機などのプレス部品加工。本社金型工場と周辺に4カ所、

## 危機管理体制を構築 常に安定供給で顧客に安心を

所のプレス工場を展開し、計80台の自動プレス機を保有する。このうちプレス機30台は段取り替えし、小ロット生産にあて、残りのプレス機は月に10万個以上の生産に対応するために、金型を付けたままの専用機にして

「こうした生産方式を思いついたきっかけは。伊藤 日進月歩で進化するマシンングセンター(MC)やワイヤカット放電加工機に比べ、プレス機は30年経っても性能や操作方法などはほとんど大きくは変わらない。さ

「こうした生産方式を思いついたきっかけは。伊藤 日進月歩で進化するマシンングセンター(MC)やワイヤカット放電加工機に比べ、プレス機は30年経っても性能や操作方法などはほとんど大きくは変わらない。さ

月1に新たに7台の門型自動プレス機を送る。同工場ではカーオーディオや安全ベルトなどの部品加工を手がけているが、高性能プレス機によりさらにレベルの高い仕事が受注できる。

「昨年、東日本大震災がありましたが危機管理体制は。伊藤 国内に4つの工場があるのも自然災害のリスクを分散させる狙いがある。また、当社は寺方工作所(鳥取県)と兵庫(板木県)と技術連携を組んでいる。2社とも優れた部品加工技術と製造設備を持っていて、万が一の折にはお互い助け合う体制ができた。

「新たにプレス工場を建設する予定は。伊藤 一段と安心していただけに体制を心がける年としたい。

「新たにプレス工場を建設する予定は。伊藤 一段と安心していただけに体制を心がける年としたい。



社員教育をさらに強化したい...と語る伊藤社長

日本を想定以上の災害があれば、ワイリピン工場が対応する。今年よりこの3段階で災害に備え、部品供給者として顧客に

伊藤 本年末に第5工場を完成させるための準備を進めている。新工場は災害のリスクをさらに分散させる狙いもある。

2年以内に10台導入する予定。さらに工場内に金型の専用保管庫を設置する。保管庫は生産を終えた100-200トン

「社員教育にも力を入れていきますね。」

伊藤 10-20代の若手社員のレベルアップを狙って毎週金曜日に1時間余りの勉強会を開いている。内容は品質管理や金型製作技術関連。さらに金型設計やメンテナンスなど幅広い分野にわたる。講師は当社の経験者が持ち回りで、定期的な外部講師も招き入れる。2012年も社員教育をさらに強化したい。